





「今日の仕事は俺のチンポを気持ちよくすることだわかるな……？」

「ええ……♡  
ふふ♡ボクサーパンツが  
もうギンギンね♡」

「この日のために熟成させたチンポだしっぴり味わえよ」

ズン



「質問に答えるどっちのチンポが大きい？」

俺は催眠で強制的に吐かせた。

「……  
貴方の方が大きいわ♡」



「うわっ♡はあ……  
すごいオスの臭い……♡」

ついでにチンポ臭で  
発情するように弄ってやった。

むわ……♡

「好きなんだから  
もっと嗅いでいいぞ」

「んふっ♡♡じゅっ♡  
ふっ♡くさっ♡♡  
亀頭まわりに  
恥垢がついてる……♡」



「夏葉の騎乗位は  
すごい迫力だな  
流石鍛えてるだけはある」

「ふっ♡んっ♡  
気持ちよすぎてる♡  
くうっ♡んっ♡♡」

「すげえケツ穴が  
引くついでに  
夏葉のアナルは  
下品だな」

「あまり  
見ないで……♡  
恥ずかしいから……♡」

!!!

!!!

!!!

!!!

!!!



「ほんとうに♡おめ♡  
すー♡♡♡♡♡」

「熱気がすごいわ  
顔にしみじんできてる...♡」

「じゅーおおお♡♡♡  
ぢゅっ♡ぢゅっ♡  
ぢゅっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「そろそろ射精すぞっ!  
喉奥締めろよ」

「喉奥締めろよ」



「うっ♡んんん♡  
わたし...♡♡♡♡♡♡  
イキそう♡♡♡♡♡♡」

「許可する  
デカケツで  
しっかり搾り取れ...!!」

!!

!!

!!

!!

「においは覚えてたか……？  
これが今日お前に  
種付けするチンポだ……」

「ええっ……バツ千りよ……  
ふふ……張り切って  
交尾するわ♥」

「ぐおっ!! 射精るっ!!」

「上目づかいで  
飲み干すとは  
このビッチが……♥」



「くはっ♥あっぐっ♥  
イクっ♥イクうううっ♥」

「イクイク」

「あゝ  
イクイク」

「びゅんん〜」

「まだまだ  
始まったばかりだからな  
どんどん子宮に  
射精してやる……!」













「あっ…  
ぐう…♡」

「なんでそんなに  
奥ばっか…♡」

「夏葉お前  
奥イキまだ  
だったろ  
今日はたっぷり  
開発してやる…!」



「乳揺れすぎえ  
良い眺めだな」

「あっ♡はっ♡  
あああ♡  
ずっとイキっぱなし  
だから少し休ませて♡」





「ひゃあっ♡♡  
ふっ♡んんっ♡」

「結構かわいい  
声でなくじやねえか  
オラツ！」

「あっ♡くっ♡  
子宮口が  
ジンジンするっ♡...♡」

アッ

アッ

アッ

アッ



「するわけないだる！  
自分が今オスを  
気持ちよくするための  
オナホだと  
自覚しろっ!!」

「ちよっ♡まっ♡  
急にゴリゴリしないで  
あっ♡あああ♡♡♡」

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ



「やばっ  
んぐっ」  
♥♥♥  
「奥キマるっ♥♥♥」

「すげえ  
子宮口が  
吸いついてくる……！」

「とんでもねえ  
エロまんこだ……！」

ズク

ズク

ズク

ズク

ああ

ズク

は

ああ



「これが  
本物のまんこヨキだっ!!」

「んおっ  
ちよっ」  
♥♥♥  
「はげっ」  
♥♥♥

ズク

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん

おん





「ホントにやめて  
ヤバイのクル  
からっ♡♡♡」

ズッ

ズッ

ズッ

「オラっ!  
無様にイキ果てるっ!」

ズッ

「んはっ♡  
いくっ♡  
いっちやうう♡」

ズッ



「射精すぞ  
夏葉っ!!  
絶対孕ませてるっ!」

あーっ♡

あーっ♡

ズッ

ズッ

「オラっ!  
いくぞっ!!」

ズッ

ズッ

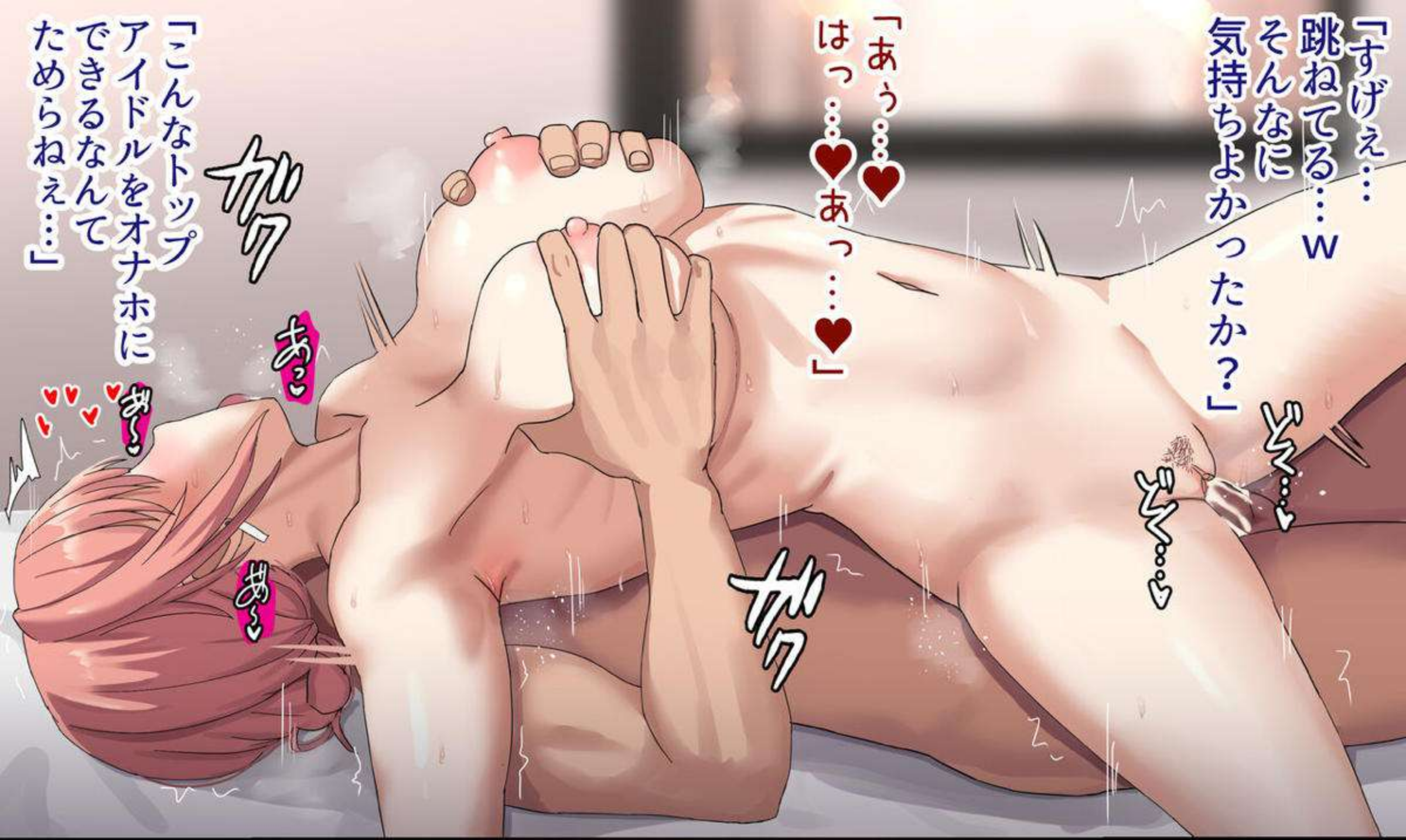
ズッ



アイけっ!!  
オラッ!!







「こんなトップ  
アイドルをオナホに  
できるなんて  
ためらねえ！」

「あう...あう...  
はっ...はっ...  
はっ...はっ...」

「すげえ...  
跳ねてる...w  
そんなに  
気持ちよかったか？」

「夏葉のアイドルまんこ  
最高だったわ  
また使ってやるからな...」

「あはっ...はっ...  
ケイレン  
とまんないっ...」













